

AICHI NEXT

Performing Arts Project

公募プログラム



次代のパフォーマンスは、
ここから動き出す。

Challenge stage A

2026年10月16日(金)-17日(土)

愛知芸術文化センター内 2階フォーラム

Challenge stage B

2026年11月21日(土)-22日(日)

愛知県芸術劇場 小ホール



鳥居 ひろみき
即興する身体とディアボロ

野口 桃江
心音ピアノ : Revivify 236283

武田 摩耶／禹 泰旭
in-between-ness

高橋 侑大
左肩と右腕のため、もしくは全身のためかもしれないメソッド

私道 かぴ
きそ、ちた、あいち〜流域めぐる水のうた〜

近藤 基弥
人体インスタレーション B.O.D.Y.

CI部
Cosmos Park Re-creation



Aichi Prefectural Art Theater
愛知県芸術劇場

芸術監督 唐津絵理

AICHI NEXT: Performing Arts Project

知るたびに、世界が広がる。

次世代を担うアーティストたちに、出逢おう!

新しい才能・人材の発掘と、愛知芸術文化センターでの公演により発信・育成を図る公募プログラム「AICHI NEXT:Performing Arts Project」。

Challenge stageでは、7組のアーティストによるパフォーマンスを上演します。ジャンルを横断した実験的な作品、アーティストの視点による愛知の魅力発見など、ユニークかつ新規性のあるプログラムばかり。アーティストたちの挑戦と新たな出逢いをお楽しみください。

Challenge stage A

10月16日(金)-17日(土) 愛知芸術文化センター内 2階フォーラムI

無料
予約不要



鳥居 ひろみき Hiromiki Torii

即興する身体とディアボロ

ディアボロの本場・台湾のアジアカップでの優勝経験を持つ
サーカスアーティストによる詩的なパフォーマンス

ディアボロ(中国ごま)とコンテンポラリーダンスを用いた作品。本作品では、ディアボロと身体によって生まれる即興的な動きに焦点を当て、単にジャグリングの技術や身体能力を見せるだけでなく、その過程で生まれる試行錯誤や揺らぎにも目を向ける。飾らない等身大の表現を通して、泥臭さの中にある美しさ、美しさの中にある泥臭さを探る。今回は、野口桃江氏の心音ピアノの演奏とのコラボレーションによるパフォーマンスを上演。

鳥居 ひろみき

2002年生まれ。7歳よりディアボロを始め、ディアボロの本場、台湾で行われたアジアカップで優勝。20歳頃まで競技を専門にしていたが、沢入国際サーカス学校入学を機に身体表現に関心を広げる。ディアボロとコンテンポラリーダンスを横断し、いびつで不安定さを含む、等身大の表現に取り組む。

野口 桃江 Momoko Noguchi

こころね

心音ピアノ Heart tone piano : Revivify 236283

根源的な身体性に根差す「触れること」と「脈拍」
ひとの脈拍に呼応するピアノの展示と作家による即興演奏

心音(こころね)ピアノは、触れるひとの脈拍をピアノに移し、自動演奏へと変える創作楽器。ピアノ本来の機構を残したまま自動演奏装置を組み込むことで、一つの楽器のなかで機械と人間の演奏が共存する。AICHI NEXTでは、鑑賞者自身が「言葉の楽譜」に導かれ、自分だけの響きに耳をひらく体験型展示と、鳥居ひろみき氏のディアボロパフォーマンスとコラボレーションした即興演奏を展開する。

野口 桃江

器楽曲～電子音響の作曲、即興演奏、生体情報を楽器やEVとつないだ体験型作品の創作を行う。作品はこれまで日欧各地の展覧会やフェスティバルで発表されてきた。アートプロジェクトや音のワークショップをとおして、多様な人々と創造的な交流をもつことをライフワークとしている。桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科卒業。デン・ハーグ Royal Academy of Art, ArtScience科修士課程修了。

武田 摩耶／禹 泰旭 Maya Takeda / Woo Taewook

in-between-ness

他者との関係の「あわい」に立ち現れる身体の具現化
日本(愛知)と韓国のダンサーの出会いによって生まれたダンス作品

Tim Ingoldの著書『Correspondences』(2021／邦訳「応答、しつづけよ。」垂紀書房刊、2023)から着想を得て、自己と他者の間に生じる関係性を再考することを主題としたダンスデュオ作品。韓国と日本というそれぞれ異なる歴史的文化背景のもとに育ったダンサー二人がCorrespondences(応答)を重ねながら紡いだこの作品が、観る者それぞれの中で新たな問いを生み出す。

武田 摩耶

愛知県出身。日本女子体育大学卒業後、2019年より英国Trinity Labanへ留学。2022年修士課程修了後、ロンドンを拠点にカンパニーやプロジェクトに出演する他、自身のソロ作品を国内外で上演。2025年に帰国後、現在は愛知県を拠点に活動している。

禹 泰旭

韓国・ソウル出身。2022年韓国のARTSinTANK Dance Festivalで初のダンス作品を発表。以降、数々の国際フェスティバルに出演。現在は韓国各地でコンテンポラリーダンス、韓国伝統舞踊、マンディゴなどの教育活動も行っている。

Challenge stage B

11月21日(土)-22日(日) 愛知県芸術劇場小ホール

有料
要予約



構成・演出・音楽 高橋 侑大
共同演出・出演(俳優) 秋田 侑吾
出演(ヴァイオリン) 鈴木 風優香
テクニカルエンジニア 五十嵐 千紘
照明 渡邊 結衣
音響 森内 慎之助

©uku kusakabe

高橋 侑大 Yudai Takahashi

左肩と右腕のため、もしくは全身のためかもしれないメソッド

日本人が失った身体性とは何か?
歩き方とヴァイオリンの弾き方に着目した現代音楽作品

江戸以前の日本においての歩き方とされる「ナンバ歩き」の身体性を再評価し、ヴァイオリンの弾き方に取り入れるという動きが近年ある。だが、この「ナンバ」の身体性は開国と共に失われていったものであり、逆にヴァイオリンの身体性は開国と共に日本人が獲得したものである。これらの事実から、私たちの身体性が操作可能なものであることについて考えるためのナラティブを1名の俳優と1名のヴァイオリニストによって展開する。

高橋 侑大

2004年名古屋出身。東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科4年在籍中。現代音楽、映像、インスタレーション、舞台まで異なるメディアを行き来しながら、音／音楽を発するという行為の裏側にある可視化されにくいシステムや制度、身体性の裏側に隠された歴史を表出させる実践を行っている。



脚本／演出 私道 かび
出演 沢柳 優大
衣装 大平 順子
照明 村田 瞳子(白いたんぽぽ)
音響 佐藤 武紀

私道 かび Kapi Shido

きそ、ちた、あいち ～流域めぐる水のうた～

長野県王滝村から愛知県南知多町まで続く水の旅
水不足とダム建設の歴史を巡る短編演劇

長野県王滝村の「牧尾ダム」から始まり、愛知県南知多町まで続く水の旅をテーマにした演劇作品。かつて知多半島の水不足により王滝村の集落にダムを建てた歴史を、水を主人公として共に巡る物語。2023年に作家と俳優が実際に王滝村から南知多までを回り、先々で愛知池保存会の方や博物館の方にお話を聞きながら制作した。同年長野県の王滝村で初演、2025年に再演を実施。今回念願叶って愛知での初上演となる。

私道 かび

劇作家、アーティスト。京都を拠点に活動する団体「安住の地」所属。身体性を意識した演出と、各地に滞在し聞いた話を基に作品をつくる。近年は祭や養蚕、団地など土地とつながりの深いテーマで制作。脚本・演出を担当した短編演劇「アーツ」が第16回せんがわ演劇コンクールにてオーディエンス賞を受賞。製糸工場の工女をテーマに女性の一生を描いた「かいころく-工女編-」で第11回北海道戯曲賞大賞受賞。



©Zozy Zhang

演出／出演 近藤 基弥
音楽 Farabi Toshiyuki Suzuki
舞台美術 Rune Beissel
照明 KzO

近藤 基弥 Motoya Kondo

人体インスタレーション B.O.D.Y.

舞踏、漫画、オブジェクト、音楽、多様な要素が絡まりあい
一つの体の中に閉じて固定した「私」という感覚を揺さぶる

ベストセラー漫画『寄生獣』(岩明均著／講談社、1990-1995)に着想を得て、ひとつの「私」という存在が、すでに様々な他者、環境、社会条件、文化、身振り、記憶によって構成されているという現実を、物語や概念の説明ではなく、舞台上の知覚体験として立ち上げる。そうして、皮膚という輪郭の内に閉じられた一つの「私」という感覚をほどいていく。一つのアイデンティティの確立が求められる現代において、関係性のなかで絶えず変化し、生起し続ける多層的な身体を提示する。

近藤 基弥

名古屋出身。2005年より大野慶人に師事。2010年以降、日本、インド、ネパール、バリ、スペインなどで伝統舞踊のフィールドワークを重ね、東西の身体文化に通底する普遍的な身体性を探求。2008年より東洋の内観技法、とりわけチベットの伝統を実践しながら、現代芸術と古代の智慧を横断する創作・指導活動を行う。ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、世界50都市以上で公演・指導を行う。



振付／演出 宝栄 美希(CI部 部長)
振付／出演 手代木 花野(CI部 副部長)、堀江 善弘(CI部 名古屋支部長／[exit])
出演 武田 摩耶、田坂 歩(鮭スベアレ)
村田 勇人、Yuto=Evo.Danceman
土方 智哉
サポートキャスト 長田 明(劇団jobless)
照明 味瀬 浅利(オレンヂスタ)

CI部 Chibu

Cosmos Park Re-creation

東京と名古屋のダンサーがつながるコンタクト・インプロヴィゼーション
ミクロな視点から宇宙へと広がるダンス作品

コンタクト・インプロヴィゼーション(CI)を基盤に、人と人との関係性の中で生まれる秩序と混沌、その循環を描くダンス作品。遊園地(Park)を象徴的な舞台に、個人の存在への問いから宇宙的な視点(Cosmos)へと広がる感覚を身体表現で探求する。AICHI NEXTでの再演は、単なる再現に留めず、作品を再創造(Re-creation)し、個と全体、日常と非日常の関係性をあらためて問い直す。

CI部

2008年、宝栄美希・手代木花野により結成された、コンタクト・インプロヴィゼーション(CI)を基盤とする東京拠点のダンスユニット。プロジェクトごとにゲストダンサーを迎え、劇場に限らず多様な空間で作品を発表している。現在は名古屋支部長に堀江善弘を迎え活動の幅を広げている。CIの即興性や身体原理を活かしながら、舞台作品としての表現性と構造的な探究し、その身体的・社会的可能性を広く社会へ開く活動を行っている。

Time Schedule

公演情報詳細はこちら →



Challenge stage A

愛知芸術文化センター内 2階フォーラムI

10月16日(金)

13:30~15:10	ホフェッシュ・シェクター・カンパニー『Theatre of Dreams』(会場：大ホール 有料：要予約)
15:15~15:30	鳥居ひろみき『即興する身体とディアボロ』
	野口桃江『心音ピアノ：Revivify 236283』
15:45~16:15	武田摩耶/禹泰旭『in-between-ness』
16:30~18:00	野口桃江『心音ピアノ：Revivify 236283』体験展示

10月17日(土)

12:30~13:15	野口桃江『心音ピアノ：Revivify 236283』体験展示
13:30~13:45	鳥居ひろみき『即興する身体とディアボロ』
	野口桃江『心音ピアノ：Revivify 236283』
15:00~16:40	ホフェッシュ・シェクター・カンパニー『Theatre of Dreams』(会場：大ホール 有料：要予約)
17:15~17:45	武田摩耶/禹泰旭『in-between-ness』

Challenge stage B

愛知県芸術劇場小ホール (愛知芸術文化センター地下1階)

11月21日(土)

11月22日(日)

ロビー開場：開演30分前
客席開場：開演15分前
各回アーティストトークあり

13:00~ 14:45終了予定 トーク含む	プログラムI 高橋侑大『左肩と右腕のため、もしくは全身のためかもしれないメソッド』 私道かび『きそ、ちた、あいち～流域めぐる水のうた～』
16:00~ 17:45終了予定 トーク含む	プログラムII 近藤基弥『人体インスタレーション B.O.D.Y.』 CI部『Cosmos Park Re-creation』

※やむを得ない事情により、内容等が変更になる場合があります。

チケット料金 (税込)

Challenge stage A

公演 10月16日-17日 無料・予約不要 (椅子席などはありません)

Challenge stage B

公演 11月21日-22日 **全席自由**

1日通し券：一般 3,000円 / U25 1,500円

1回券 (プログラムIまたはプログラムII) 各回：一般 2,000円 / U25 1,000円

サポーターチケット (1日通し券)：7,000円

※サポーターチケット料金のうち1枚当たり4,000円がアーティストの活動支援金となります。

※U25は公演日に25歳以下対象 (要証明書)。

※未就学児もご入場いただけます。上演中、周囲の鑑賞の妨げとなる場合は、
一時ご退席をお願いすることがございます。

※車いすでご来場の方は、チケット購入後、劇場までご連絡ください。

チケット取り扱い

一般発売 2026年9月18日(金) 10:00~

・愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

・愛知芸術文化センタープレイガイド(地下2階)



TEL 052-972-0430 平日 10:00~19:00 土日祝休 10:00~18:00
(月曜定休 / 祝日休の場合、翌平日)

AICHI NEXT: Performing Arts Project

Advance stage もあわせてお楽しみください。
12月5日、6日 ルサンチカ『ゴドーを待ちながら』

アクセス

愛知芸術文化センター

地下鉄 ▶ 東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩5分

名鉄 ▶ 瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩5分

(オアシス21地下連絡通路または2F連絡橋経由)

託児サービス

対象公演：Challenge stage B

11月22日(日) 13時開演 (プログラムI) / 16時開演 (プログラムII)

(1日通し券ご購入で託児をご希望の方は、各回毎のお申込みが必要となります。)

対象：満1歳以上の未就学児 料金：1名につき1,000円(税込)

申込締切：11月14日(土)

託児サービスのお申込み：オフィス・パレット株式会社

TEL 0120-353-528 (携帯からは052-562-5005)

月~金 9:00~17:00 土 9:00~12:00 (日・祝日は休業)

愛知県芸術劇場 (公益財団法人愛知県文化振興事業団)

芸術監督：唐津絵理

プロデューサー：仲村悠希

舞台技術：峯健、築山竜次

広報：武石進衛

チラシデザイン：内山雄斗

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

(劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業))

独立行政法人日本芸術文化振興会

主催・お問合せ 愛知県芸術劇場 (公益財団法人愛知県文化振興事業団)

TEL 052-211-7552 (10:00~18:00) FAX 052-971-5541

E-mail contact@aaf.or.jp https://www-stage.aac.pref.aichi.jp

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

